

1 各委員会の活動状況について

12年間をつなぐ推進委員会

◆本委員会が推進していくこと

自分も周りも大切にしながら、人・もの・ことに積極的につながる力を育むために、12年間の学びや育ちのつながりを推進する

◆推進の方向

- ①本委員会の方針と活動について、各校教職員への周知と共通理解
- ②自分の周りも大切にしたいつながりを支える取組の実施
- ③今年度の取組の成果と課題から来年度の検討

これまでの委員会の主な内容

<定例>

①5月22日（水）第1回委員会

- ・本委員会の方針と今年度の活動内容の確認
- ・昨年度の実践の振り返り

②8月19日（月）第2回委員会（小中学校推進委員のみ）

- ・SDGsについての学習を推進するための高浜カリキュラムモデルプランの検討

③2月4日（火）第3回委員会

- ・今年度の活動の振り返り
- ・SDGsについての学習の導入における各校の進捗状況の確認

<今年度の成果と課題> 【資料1】

① 異校種間・異学年間連携事業の実践と充実に向けた取組

- 子ども中心の活動「異校種間・異学年間交流」
- 教師中心の活動「異校種間・異学年間参観」

幼・保→小・中 11名 小→幼・保 4名 小→中 6名 中→小 1名 合計22名

② 高浜市が育てていきたい子どもの姿の周知に向けてのカレンダーの活用

③ 高浜カリキュラムモデルプランの検討

※令和7年度から、小6の総合的な学習の時間でSDGsをテーマとした学習を取り扱う。

→SDGsについては、すでに低学年が身近なところから取り組んでいたり、小3から小5の高浜カリキュラムのテーマとも関連していたりする。また、小学校区ごとの「人・もの・こと」には特色があり、同じテーマで学習していても子どもたちの興味や関心は様々である。小6では、これまでに各校の総合的な学習の時間で学んできたことを振り返らせながら、子どもたちに世界の課題が自らの地域の課題にもつながっていることを意識させたい。

<来年度に向けて>

- ① 「異校種間・異学年間連携事業」や「高浜市が育てていきたい子どもの姿の周知に向けてのカレンダーの活用」については、各校で定着化し、これらを意識した教育活動が行われている。引き続き、取組に対しての価値について全教職員に情報発信し、新たな取組につなぐ。
- ② SGDの学習については、高浜カリキュラムモデルプランを参考にして、各校で単元構想を練り、実践する。実践事例や使用した教材については、委員会内で積極的に情報交換を行い、各校の学習がより充実することにつなぐ。

高浜版ギガスクール構想推進委員会

◆本委員会が推進していくこと

プログラミング的思考を育成する「高浜版プログラミング教育」の円滑な実施と資質・能力を一層確実に育成する ICT を活用した授業改善、情報モラル教育の充実

◆推進の方向

- ①ICT の積極的な活用による、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- ②情報モラル教育の一層の充実

1 これまでの委員会の主な内容

<定例>

①5月15日（水）第1回委員会の開催

本委員会における活動方針の確認および各校における ICT の効果的な活用と情報モラル教育の実践について意見交換

②11月13日（水）第2回委員会の開催

タブレットの入れ替えに備え、アプリの使用状況を調査し、より学校現場に即したものは何かを検証、意見交換

③1月22日（水）第3回委員会の開催

今後の ICT 活用と情報モラル教育のより一層の充実に向けて、各学年の具体的な子どもの姿、指導内容と該当学年についての意見交換、来年度に向けた取り組みへの課題について

<成果>

(1)各教科における ICT の効果的な活用

- ・資料や教科書の拡大表示、ロイロノートによる児童の意見の集約、表明、共有、交流等あらゆる場面で活用がなされ、児童の学びを深めることに役立った。
- ・発言の少ない児童も積極的に自分の考えや表現をし、共有できるようになった。
- ・調べ学習では、さまざまな資料から自分の調べたいことを見つけ、考えを深めることにつながった。
- ・体育や音楽等における技能面の撮影により、その映像資料を使って現状把握と対策を検討することができた。

(2)情報モラル授業の実施

- ・情報モラル授業については、計画的に実施されている。
- ・各学年に応じた、情報モラル教育についての具体的な目標をもう一度見直すことができた。前学年に学習した内容について、次学年以降にも振り返ることができる場面の設定を考え、手立てについて意見を交わした。

(3)小学校における「高浜版プログラミング教育」の実施

- ・専門知識が豊富なプログラミング教育支援員協力のもと、プログラミング学習を進めるため、児童にとって楽しくわかりやすい授業展開であり、有効であった。
- ・1年生からプログラミングに親しみ、苦手意識が生ずることなく、どの子も楽しく取り組むことができています。

<課題>

- ・ICT を取り入れた授業を積極的に実践し、その効果的な活用法を収集し共有することで、授業の質の向上をさらに目指してしていく必要がある。
- ・今後も継続的に情報モラル教育の一層の充実を考えていく。タブレット管理や著作権など情報モラルの面で、適切に扱う責任を自覚できるような指導の充実が必須である。
- ・プログラミング学習の前にアルファベットやタイピングの練習の必要性和その時間の確保について

2 今後の活動について

- ・ICT の効果的な活用についての情報収集や研修についての検証
- ・情報モラル教育の具体的な実践の収集とその方法
- ・「高浜版プログラミング教育」の円滑な実施、小中の連携

キャリア教育推進委員会

◆本委員会が推進していくこと

なりたい自分に向かって学ぶ力を育むためにキャリア教育の充実に向けた取組を推進する

◆推進の方向

- ①本委員会の方針と今年度の活動について各校教職員への周知と共通理解
- ②キャリア教育の充実に向けた取組の検討
- ③来年度の取組の方向性を決定

これまでの委員会の主な内容

<定例>

①6月7日（金）第1回委員会

- ・本委員会の方針と今年度の活動内容の確認
- ・現行の「高浜市キャリアパスポート」と「愛知県キャリア教育ノート」について意見交流

②8月26日（月）第2回委員会

- ・高浜市キャリアパスポートを「どんな内容にするか」「どう活用するか」について意見交流

③12月25日（水）第3回委員会

- ・各校のキャリアパスポート活用の様子を意見交流
- ・現行のキャリアパスポートを基に、委員が編集した新しいキャリアパスポートの案について検討
- ・来年度の取組とその進め方についての提案

<今年度の成果>【資料2】

○キャリアパスポートの内容やその活用について意見を交流する中で、「こんなキャリアパスポートにしたい」という方向性が見えた。

【第1回・第2回の意見交流から】

- ・子どもが自ら「書きたい」「残したい」と思うキャリアパスポートにしたい
- ・子どもが「自分を知る」ことができるキャリアパスポートにしたい
- ・子どもが頑張ったことを「具体的に」記録に残すキャリアパスポートにしたい
- ・子どもが周りの人（仲間・先生・保護者）と対話し、励まされるキャリアパスポートにしたい

○各校の推進委員が、キャリアパスポートの内容やその活用について、学級担任を中心とする職員から聞き取った意見や担当する学年の児童生徒の様子を参考にして、現行のキャリアパスポートを編集した。ある委員は、「子どもが自分の現状について、素直に記述できるように配慮することが必要である」と編集集中に考えたり、「高学年になる時期を節目として、過去の自分と今の自分を比較して、子どもが自身の成長を実感できる」ように工夫した新たなページを追加したりしていた。

<来年度の取組>

キャリアパスポートの内容・活用の仕方についての見直しを継続する

- ①子どもが主体的に取り組むことができる内容を検討し、ひな形を示す。
 - ・子どもが親しみを感じることができる紙面をデザインする。
 - ・子どもの発達段階に応じて、書く分量を配慮する。
 - ・成長の節目に当たる時期に、特別なページを設ける。
- ②活用の仕方を検討する。
 - ・子ども同士、教師、家族と対話できる機会をどう設けるか。
 - ・子どもがこれまでの成長を実感し、今後の成長を楽しみにできる機会をどう設けるか。

集団づくり推進委員会

◆本委員会が推進していくこと

自分を知り、持ち味を発揮している子どもが自分らしく輝くために、一人一人が持ち味を発揮できる集団づくりを推進する

◆推進の方向

- ①本委員会の方針と活動について、各校教職員への周知と共通理解
- ②一人一人が持ち味を発揮できる集団づくりの推進に向けた取組の検討
- ③来年度の取組の方向性を決定

これまでの委員会の主な内容

<定例>

①5月29日（水）第1回委員会【資料3】

- ・本委員会の方針と今年度の活動内容の確認
- ・昨年度の委員会で共通理解した「持ち味を発揮している子どもの姿」についての意見交流

②8月23日（金）第2回委員会

- ・各校で実践した集団づくりに関わる活動についての報告
- ・報告された活動について、「自己肯定感」や「他者信頼感」を高められるものであったかを協議

③12月24日（火）第3回委員会【資料4】

- ・各校の「取組の目的を明確にした子ども主体の活動」を「集団づくり 活動紹介シート」に記録
- ・来年度の取組とその進め方についての提案

<今年度の成果>

○昨年度の委員会で共通理解した「自己肯定感」「他者信頼感」について、具体的な子どもの姿を表す言葉でまとめることができた。（自己肯定感：①自分の強みを知る②自分から行動する③自分を磨き続ける 他者信頼感：①認め合う、思いやる、他者の働きかけに応じる②コミュニケーションをとる、チームとして行動する、振り返る）

○各校から紹介された様々な活動について、その意味や取り入れるとよい場面について考えることで、効果に大きな差が出ることが分かった。また、実際に推進委員が子供の立場で活動をやってみて、活動のねらいを定めることや、子どもへの働きかけや声かけの内容や方法を明確にすることの大切さを実感できた。

○「集団づくり 活動紹介シート」を作成することで、活動の意味を市内の職員に分かりやすく伝えることができる。シートには、内容や準備、進め方だけでなく、活動のスタート（活動中に見たい子どもの姿）とゴール（活動後の子どもたちの振り返り）を記録する欄を設けられているため、活動の効果を具体的に想像しやすくなった。

<次年度に向けて>

○委員会としての成果を各校の職員へ周知し、多くの職員に集団づくりに関わる活動を行ってもらいたい。周知の方法や実践事例の収集の仕方について、今後検討したい。

○「集団づくり 活動紹介シート」を学級・学年経営や児童会・委員会活動のための資料としてまとめ、活動のリストを作成できるとよい。

○学級・学年経営や児童会・委員会活動に関して、専門的な知見をもつ講師を招いて研鑽を積みたい。できれば推進委員だけでなく、各校の職員にも呼びかけ、集団づくりについて多くの職員が学ぶ場を設定できたらよいと思う。

学 校 防 災 検 討 委 員 会

◆本委員会が推進していくこと

- 児童生徒の命や安全を守るための関係機関との連携確認
- 児童生徒に対する防災教育、教職員への防災研修の推進
- 保護者への引き渡しができなかった児童生徒が、一晩安心安全に過ごすために必要な備品等の点検、整備

<前期>

◆令和6年6月11日（火）第1回委員会の開催

- (1) 児童生徒の備蓄食について
 - ・各校児童生徒数の1割を3年に1度購入する。令和7年度予算要望、令和8年度購入予定。
- (2) 「学校防災倉庫維持管理表」について
 - ・不足の確認、補充の必要があれば予算要望
- (3) 非常時における対応について
 - ・震度4について→管理職1名から配備なし
 - ・震度5弱強→全教職員から管理職1名
 - ・震度6弱→全職員
- (4) 水防法改正による水害時の避難確保計画、避難訓練について
 - ・実施と報告の義務化 → ハザードマップを確認し水害に応じた訓練計画を
- (5) 震度6以上の巨大地震が発生した際の学校対応について
 - ・震度5弱以上の地震発生で、授業・行事を中止し保護者引き渡し等による下校になる。高浜市の学校においては、震度6強程度の地震にも耐えられる設計になっている。震度6弱以上の地震が発生した場合、校舎外に避難した児童生徒を校舎内に戻す際は、火災発生の有無、落下の危険性や物の倒壊の有無を十分に確認してから戻すなど臨機応変な判断と対応が必要となる。
→「大規模地震発生直後における施設管理者等による建物の緊急点検について」を共有。
- (6) 今年度の課題

<後期>

◆令和7年1月29日（水）第2回委員会

- (1) 今年度の各校の振り返り
 - ①「地震」「風水害」の避難訓練の概要・成果・今後の課題について。
 - ②「児童生徒対象の防災教育」について。
 - ③「教職員対象の防災研修」について各校の実施状況。
- (2) 「学校防災倉庫維持管理表」について
- (3) 教職員の非常配備について
- (4) 南海トラフ地震臨時情報発表時の学校における対応について
 - ・令和6年8月8日（木）発表の南海トラフ地震臨時情報への対応から、学校の対応について見直し。
→倒壊・損壊等の被害なし、かつ津波警報の発表がなければ、学校の教育活動は継続
- (5) 非常時におけるすぐーるの配信について
 - ・令和6年8月8日（木）及び令和7年1月13日（月）発表の南海トラフ地震臨時情報への対応から市教委から家庭へ一斉配信する場合（市内統一事項）の見直し
→調査中のすぐーる配信は行わない。高浜市に地震がない場合は学校経営グループから「巨大地震警戒」「巨大地震注意」の対応をすぐーるにて配信。高浜市に地震があった場合は、状況に合わせて市教委と学校とで協議し、対応を決定したのち、学校からすぐーる配信を行う。
- (6) 水防法改正による水害時の避難確保計画、避難訓練について
 - ・「稗田川洪水」「高潮」「矢作川洪水」は事前予知可能な水害であるため、情報が入り次第下校させるか保護者引き取りになるが、訓練実施の必要がある。
 - ・震度5弱以上の地震が起きても、津波に関する注意報・警報がなければ、避難のために移動する必要はない。

(7) 巨大地震が起きた際の通信について

- ・ドコモのキャリアについて、災害時は高浜市役所のキャリアがバッテリー24時間化されており、市役所から半径数キロメートル内で通信可能。高浜市内であれば停電時も24時間はタブレットを使つての通信は可能なことが予想される。

◆ 今後について

- ・有事の際に、児童生徒の命、安全が確保されるように、関係機関同士が連携しながら、より望ましい姿を検討していけるよう、本会議を運営する。
- ・大災害時において、初期段階での学校対応、市への避難所運営移行など、地域の防災拠点として学校が機能するよう、教職員の対応の仕方や避難所として必要な備品など、学校の防災マニュアルを改善・周知する。
- ・防災教育、避難訓練の在り方について見直し、実際に想定した訓練を考案・実施する。

教育環境整備検討（情報ネットワーク）委員会

◆ 本委員会の役割

新学習指導要領を踏まえた学校のＩＣＴ環境整備を推進する。
高浜市内の小中学校の教育環境、ネットワーク整備に資する。

1 これまでの取組

（１）第１回教育環境整備検討（情報ネットワーク）委員会【令和６年５月２１日（火）】

① 各校問題点、全体での確認点について

- ・メールに s p a m（フィッシング詐欺等）がつく現象については、現状よりセキュリティーを上げると必要なメールが届かない可能性もあるため、現状の状態をキープしていく。

② 校内で周知、学校経営グループへ提出する文書について確認

- ・児童生徒誓約書については、市内転出時には相手校に送付し、児童生徒が在籍する学校で管理していく。小から中への進学時も同様。
- ・今年度より校務ＰＣとタブレット端末の教員誓約書については、年度当初に依頼する形へ変更した。授業日より出勤する教員もいるため、提出日の検討は次年度以降必要。
- ・リアテンドントでは、ローカルデータへの保存が必要となりセキュリティーポリシー、資産管理と整合性がとれないため、今後セキュリティーポリシーや資産管理について改訂を図っていく予定。

③ 今後の高浜市内環境整備計画について

- ・校務ＰＣ、校務サーバー、タブレット端末は、令和７年度の夏に更新される。レーザープリンターについては、更新時期を市内全校でそろえるため、令和７年からは単年度の契約が可能な代替え機を準備していく予定。

④ すぐーるによる遅刻欠席連絡について

- ・昨年度９月より正式に運用を開始した。小中学校に同じ登録した際に、切替が必要となるため、中学校入学説明会にて中学校より関係保護者に説明を行う。

⑤ その他

ア 低学年端末のパスコード設定について

- ・低学年端末も今年度より６桁認証に変更をしていく。新１年生端末については導入時より６桁設定となっているため、２～４年生端末について各校で時期を調整し、ヘルプデスクに依頼をして変更していく。

イ ALT への貸与端末、ロイロアカウントの発行について

- ・今年度より ALT が希望すれば、端末の貸与、ロイロアカウントの発行が可能となる。
- ・使用に際してのセキュリティーポリシー周知や利用申請書への反映については、勤務校にて確実にを行う。

（２）第２回教育環境整備検討（情報ネットワーク）委員会【令和７年２月４日（火）】

① 年度末、年度初めのタブレット端末に係ることについて

ア 各学年の端末について

イ 異動する教員の端末について

- ・異動先の学校でデータが使用できる方法について確認し、前任校でログインできる期限を５月１２日とした。
- ・予備端末となる端末については、初期化とともに、各種システムからサインアウトをして

おくことを指示しておくよう依頼した。

ウ 新学期の登録について

エ 4月当初の授業におけるロイロの使用について

② 年度末の貸与パソコンの取り扱いについて

③ 年度末、年始の更新作業について

ア C4th による一括管理について

イ すぐーるについて

- ・年度切り替えの設定日時については入学式の日12時とする。

- ・欠席連絡運用開始に伴い、年度更新の際のクラスとの紐付けについては、各校の実態に応じて各校判断で行う。

④ タブレット端末のOSアップデートについて

ア OSアップデートによるストレージ容量不足やそれを起因とするエラーが発生するケースが多発することが予想されるため、今年度末のアップデートは基本的に行わないようにした。

⑤ 年度途中の転出入に伴う端末管理について

⑥ 次年度の校務PC、タブレット端末の更新スケジュールについて

ア 両機器とも次年度の夏期休業中に入れ替えを行う。

イ 学校側で事前に行っておくこと、業者に対応を依頼することについて確認した。詳細スケジュールは次年度の第1回教育環境整備委員会にて周知する予定。

⑦ 校務PC更新に伴うUSBメモリの扱いについて

ア 情報セキュリティの観点から、校外へのデータ持ち出しについては、市で準備したUSBメモリを使用し、私用メモリは活用しないようにしていくことを確認した。

⑧ その他

ア タブレット端末の取り扱いについて

- ・年度当初に市からの貸与物であることを改めて子どもたちに伝え、大切に扱うように指導していく。

イ Zoomの接続テスト、家庭との連携について

ウ 教員端末の定期更新、メンテナンスについて

エ eライブラリの教員IDについて

オ プログラミングの更新について

カ MDMプロファイルの有効期限更新について

- ・有効期限が近づいた段階で、通信を行うことで自動更新される。予備端末等、普段接続をしない端末において注意が必要となる。四半期毎にヘルプデスクより対象端末のデータを送付してもらい、各校に周知していくことで対応していく。今後の期限切れ端末については有償対応となる。

キ 市内小中学校HPのたより欄の項目変更について

2 今後の取組

次年度は、校務PCやタブレット端末など、デジタル機器の更新が控えている。詳細なスケジュールと互いの役割分担を明確にして、効率的に更新できるようにしていく。また、それに伴い、私物USBメモリによる外部へのデータ持ち出しを制限するなど、デジタルで情報を取り扱うことが今後さらに多くなってくるため、セキュリティ面についてもしっかりと整備していく。

特 別 支 援 教 育 委 員 会

◆本委員会が推進していくこと

- 1 こども発達センターと連携し、一人一人のニーズに応じた支援とそれに係わる保護者支援を進めること。
- 2 特性を理解しながら子どもの実態を把握し、一人一人のニーズに応じた支援が継続的・発展的に一貫して行われるためのシステムを構築すること。
- 3 各園・各校が子どもたちへの理解を深め、特別支援教育を推進する力そのものを向上すること。

◆これまでの取組み

【1：こども発達センターとの連携について】

①教育相談

- ・こども発達センター主催の5歳児健診に、担当指導主事が参加し、保護者向けに就学準備や特別支援教育等についての教育講話をするとともに、早期からの保護者支援や就学指導がスムーズにできるようにしている。

②専門家チーム巡回指導訪問

- ・市内の各幼稚園・保育園と各小中学校に専門家チームを派遣している。教育委員会の専門家とこども発達センターの専門職でチームを組み、小学校区ごとにチームを指定して、発達が気になる子どもたちの観察、支援の仕方への指導助言を行っている。小学校区ごとにチームを指定することで、幼保から小中学校へ支援の継続ができる。

＜専門家チームの学校訪問回数とチーム構成（こども発達センター資料より）＞

	小 中 学 校	幼稚園	保育園	学校訪問回数	園訪問回数	専門家チームの構成	
						専門職	職員
1	高浜		中央 たかはま	小中学校のみ定期 + 小中希望により実施	4	野田先生（言語聴覚士） 石野先生（臨床心理士）	② 林田（学校経営） ① 齋藤（子ども育成） ③ 小笠原（子ども発達） ※①～③の内1人以上 （必要に応じて） 教務主任、 特別支援コーディネーター 園長、園の主任
2	吉浜	吉浜	北部 吉浜 さんさん		8	中村先生（作業療法士） 石野先生（臨床心理士）	
3	高取		高取 ひかり たかとり		4	森田先生（臨床心理士）	
4	港	南部	南部		6	大津先生（臨床心理士）	
5	翼	吉浜	よいけ 翼		5	大津先生（臨床心理）	
6	高中				1	大津先生（臨床心理士）	
7	南中				1	森田先生（臨床心理士）	

※専門家チームの巡回指導訪問

「定期訪問」…各園、各小中学校1回訪問

「希望訪問」…各園、各小中学校が対象

③連続研修：こども発達センター主催、保護者・支援者向けの研修

テーマ：「発達が気になる子ども達の子育てを考える」

対象	日時	講義内容	講師
保護者	6月18日(火)	出張お悩み相談室	野田先生（言語聴覚士）／齋藤先生（こども育成）
支援者	8月30日(金)	こどもを取り巻く新しいメンタル診断について	刈谷病院 平野千晶氏
市民及び支援者	① 6月28日(金)	困っている子どもへの関わり方	刈谷病院 平野千晶氏
	② 11月21日(木)	市内で受けられる支援・サービス	高浜市教育委員会／みどり学園 高浜市職員／たかはま障がい者支援センター
	③ 12月19日(木)	キャラバン隊 まいペース講演	キャラバン隊 まいペース

【2：システムの構築について】

①高浜市連携協議会（年2回）

発達障害を含む全ての障害のある幼児児童生徒の支援のため、高浜市教育委員会特別支援教育アドバイザーや学校関係者、保健・福祉関係者、市民代表者が連携した協議会を設置し、各種教員研修、外部専門家の巡回・派遣等をコーディネートし、学校等（幼保小中高）の特別支援教育を総合的に推進する。

②高浜市教育支援委員会（年3回）

・就学先決定やその後の一貫した支援について、早期からの教育相談・支援を踏まえた助言を行う場として開催している。

【3：推進力の向上について】

①高浜市特別支援教育研修会：市主催の特別支援教育研修会

対象	日時	講義内容等
2年目・3年目教員 スクールサポーター 希望者対象	8月30日(金)	『こどもを取り巻く新しいメンタル診断について（虐待を含む家庭の機能不全をもとに）』 講師：医療法人 成精会 刈谷病院 医師 平野 千晶 氏
2年目教員	7月～8月	「療育施設での支援の実際、保護者支援の方法」 高浜市社会福祉協議会 みどり学園なかよし教室にて
3年目教員	6月～12月	「発達が気になる子どもたちの観察、支援の仕方への指導助言について」 専門家チーム訪問に同行し、市内幼保保育園・小学校の巡回訪問、事例研究会に参加
特別支援教育コーディネーター連絡会	4月23日(火) 2月7日(金)	特別支援教育の取組について 研修「特別支援教育コーディネーターとしての役割」
通級指導担当教員研修会	5月28日(火) 10月8日(火) 1月31日(金)	通級による指導を担当する教師のためのガイドについて MIM 研修会 通級教室の流れ 支援ファイルの見直し

◆問題点・改善策

他の関係機関との支援情報の具体的な共有方法をどのように図っていくか、将来に必要な支援情報は何かを検討する。また、支援情報のよりよい保管システムを構築することで、中学校卒業後も支援を継続できるような体制を整備していく。